分科問題特集号

昨年の夏、学内報を起爆剤としてセンセーションを巻き起こした分科、教務、カリキュラム問題は、投票という形で一つの節を迎えようとしている。

1月19日に開かれた教授総会で、決定した進級基準等の事項を以下に掲げる。

一、必修専門科目において通年の科目は4単位、半期の科目は2単位、4半期の科目は1単位とする。

二、語学は3単位とする。

三、バリアー制度は廃止し、語学以外の必修科目は必ず再試を行う。

ただし、単位認定や再試験の受験資格に関しては、担当教授に一任する。

四、二年次の語学は英語一時限、独語一時限とする。

五、11単位以上の必修科目の認定がされなかった場合に留年となる。

六、再試の難易度は定期試験と同程度とする。

七、講義の目的や他の講義との関連の明示。

八、講義の年間スケジュールの明確化。

九、語学は定員70名とする。

この決定は来年度から施行される。また講義に関するアンケートは現在検討中である。

学生諸君へ

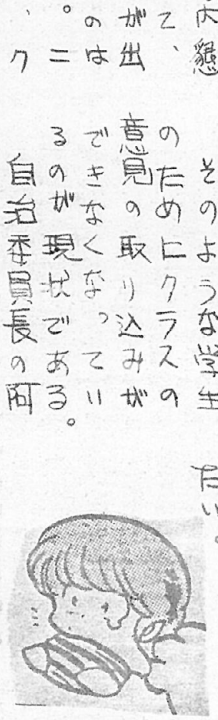
これまで多くの議論がなされてきたこの分科問題に現2年次生の投票という形で終止符が打たれようとしている。

発足後間もない自治委員会はこの半年というもの分科、教務等の諸問題に立ち向かってきた。しかし、学内連絡会議や学内懇談会において、建設的意見が出せなかったのは事実である。この原因には、クラスの地盤固めに専念できずにいたのが挙げられよう。自治委員が声をはり上げて「学級大会を開きますので帰らないで下さい。」と叫んでもその声に背を向けてさっさと帰ってしまう学生の意識に問題があるといえよう。

そのような学生のためにクラスの意見の取り込みができなくなっているのが現状である。

自治委員長の阿部君が以前「もう疲れた」と弱音とも嘆きともつかない言葉を漏らしたことがあった。

この分科の投票を機会に、皆様より自分のクラスに目を向けて、学生の自治とは何か？これからの学校のあり方についても考えてもらいたい。



以上の事から判るように、学生に対して4年次分科は不利という要因はなくなった。上記の事に関する詳細な事項は1月25日に発行予定の学内報と同日に時40分より111教室において開かれる説明会で発表される。

する意見を吸収する組織を作り、教務委員会へ問題提起してほしい。とのことであった。